

別紙様式 4

平成 21 年度サバティカル研究者 (B (一般)) 研究成果報告書

平成22年2月28日

福岡教育大学長 殿

所属講座 国語教育講座
職名 教授
氏名 藤井 良雄

受入大学・学部等名
中華民国 國立彰化師範大学 國文学系

受入教員の職・氏名
國立彰化師範大学 副学長 林 明德 (国文学系教授)

研究期間
平成21年10月1日 ~ 平成22年1月31日

研究題目 明末清初詠懐詩研究

研究成果概要 (800 字程度又は別紙添付)

受け入れ先研究機関で、まず取り組んだのは、清初の詩総集『過日集』に選出されている詠懐詩をデータ化(電子ファイル)することと、拙論「清初の詩総集『過日集』の僧詩」の基礎資料である詩僧詩のデータ化である。ほぼ1ヶ月半を費やしデータ化することができた。また、『過日集』について、これまで日本では研究も言及もなされていないので、『過日集』の文学史上の価値と明末清初の文学を指導した銭謙益について、『過日集』においてはどのように評論されているかについて検討する論文「『過日集』における銭謙益 其の一」を執筆し、『福岡教育大学国語科研究論集』第51号(2010年2月発刊)に掲載された。さらに、年末までに上記の「清初の詩総集『過日集』の僧詩」を完成し、投稿したところ、『妙心寺派教学研究紀要』第8号に掲載が決定した(平成22年5月発刊)。帰国後も「明末清初詠懐詩」研究を継続しているところであるが、今次の期間中の研究調査によって、『過日集』の詠懐詩は、龔鼎孳の詠懐詩連作四十六首のうちから十首も選ばれている。銭謙益・呉偉業と並ぶ江左三大家の一人である龔鼎孳の研究から開始せねばならぬことが判明するとともに、ひきつづき龔鼎孳の詠懐詩注釈と『過日集』中の他の詠懐詩研究を進行させ、『過日集』における明末清初詠懐詩について論文化するところである。

一方、拙論「落花の詩歌」(『おもしろくわかりやすい中国文学講義』収載)を彰化師範大学台湾文学研究所において中文系博士学生に対する講演で発表したところ、國立彰化師範大学の国文系の紀要『国文学誌』に投稿するように依頼され、その翻訳原稿や英文サマリーを作成し投稿している。『彰化師大國文学誌』第20号に掲載されよう(中華民国九十九年六月出版)。また、別紙日程表のように、2009年10月には國立中興大学中文系(台中市)で、11月には研修先の彰化師範大学で中国学関係のシンポジウムが開催され、ともに参加聴講することができた。研修期間中、台北の故宮博物院や中央研究院の傅斯年図書館にて資料収集した。

別紙添付
日程表

年 月 日	発着地名 (国名)	訪問先 (滞在地)	滞在 日数 (日)	用 務
2009.10. 1	福岡(日本)	台湾(中華民国) 国立彰化師範大学	1	國文学系へ移動
2009.10. 2 ~ 2009.10.21		国立彰化師範大学	20	國文学系での研究従事
2009.10.22 ~ 2009.10.23	彰化市	台中市(國立中興 大学中文系)	2	学会参加「社会変遷と人文著 述 - 文科場域中の話語流動 - 」
2009.10.24 ~ 2009.11.27	台中市	国立彰化師範大学	35	國文学系での研究従事
2009.11.28 ~ 2009.11.29		彰化市(国立彰化 師範大学國文学系)	2	学会参加「アジアの政治記憶 と歴史記事」
2009.11.30 ~ 2009.12.15		国立彰化師範大学	16	國文学系での研究従事
2009.12.16		故宫博物院	1	資料調査
2009.12.17 ~ 2009.12.18	台北(中華民国)	福岡(日本)	2	福岡教育大学国語国文学会参 加のため一時帰国
2009.12.19 2009.12.23		福岡教育大学 (日本)	5	福岡教育大学国語国文学会参 加
2009.12.24 ~ 2010. 1.19	福岡(日本)	台湾(中華民国) 国立彰化師範大学	27	國文学系での研究従事
2010.1.20 ~ 2010.1.21	彰化市	中央研究院(台北) 傅斯年図書館	2	資料調査
2010.1.22 ~ 2010.1.30		国立彰化師範大学	9	國文学系での研究従事
2010.1.31	國立彰化師範大学 台湾(中華民国)	福岡(日本)	1	帰着
			123	